



消防大学校だより

消防大学校新任消防長・学校長科第24期・第25期

消防大学校では、消防吏員として消防業務に従事した経験のない新任の消防長・消防学校長に対し、その職に必要な知識及び能力を総合的に修得させることを目的に「新任消防長・学校長科」を設置しています。

本年度の「新任消防長・学校長科」は第24期（4月17日～27日）が10名、第25期（5月8日～18日）が31名入校し、総員41名が11日間に及ぶ研修を終え、全員無事卒業しました。

研修では、消防庁長官を始め、消防庁幹部による最新の消防行政の動向に関する講義や全国消防長会会長による講話、各人が抱える課題等についての討議、訓練礼式を受講し、消防組織のトップとしての職責を認識するとともに、消防職の心構えについて学びました。

また、実火災体験型訓練（ホットトレーニング）の見学を行い、火災現場での消防職員の過酷な環境での活動を理解し、指揮シミュレーション訓練では、指揮者の状況判断の難しさや、連携の重要性について理解を深めました。

さらに危機管理広報では、不祥事が起きた際の報道対応の実習を行い、有事の際の広報能力の向上を図ることができました。

研修を終えた学生からは「消防長の職責をしっかりと認識し、かつ初期の悩みを解決するための、よい機会となりました。」「消防組織の所属長としての基礎知識を、短期間のうちに効率的に得ることができました。」「同じ目的、職にある人間が共同で生活し意見交換などを行うことができ、地元に戻り職場で消防長として頑張ろうという気持ちが高まりました。」など、教育科目全般及び学生相互の交流を含め、有益であったと評価する意見が多数寄せられました。

今後は一般行政職員の幹部としての経験や知識に加え、「新任消防長・学校長科」で得た知識等をいかして、消防組織の長として市民の安心・安全に貢献し、大いに活躍されることを期待しています。



消防庁長官と共に



危機管理広報



訓練礼式



指揮シミュレーション訓練

消防大学校緊急消防援助隊教育科指揮隊長コース第19回

消防大学校では、緊急消防援助隊の指揮支援部隊長等に対し、その業務に必要な知識及び能力を修得させることを目的に「緊急消防援助隊教育科指揮隊長コース」を設置しています。

本年度の指揮隊長コース第19回では、最新の緊急消防援助隊の法制、計画、活動の多様な事例、部隊運用・指揮要領、NBC災害、航空隊と地上部隊の連携に関する講義、校外研修及び図上訓練を実施し、平成30年4月16日から4月26日までの11日間(教育日数9日間)にわたる教育を受講し、29名全員が修了しました。

講義では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ラグビーワールドカップ2019等の大規模イベント開催に向けて、NBC等大規模テロ災害における消防機関の対応能力をより一層充実、向上させるために「対テロ災害(爆弾テロ災害概要)」、現場活動に係るストレス対策として「惨事ストレス対策」の講義を新たに取り組みました。

さらに、大規模災害等発生時における緊急消防援助隊の出動及び活動について、受援都道府県、被災地消防本部及び緊急消防援助隊の役割、動きを理解し、緊急消防援助隊の受援に関する部隊運用能力の向上を図ることを目的とした図上訓練の時間数を増やし、災害対応能力と指揮能力の向上を図りました。



視察研修(市原市消防局)

校外研修では、消防庁危機管理センターにおいて施設を視察し、消防庁幹部からの広域応援、国民保護に関する講義を受講、さらに千葉県市原市消防局エネルギー・産業基盤災害即応部隊(ドラゴンハイパーコマンドユニット)、東京消防庁江東航空センター航空消防救助機

動部隊(エア・ハイパーレスキュー)、海上保安庁横浜防災基地の視察を行い、緊急消防援助隊活動全般に係る見識を深めました。

研修を終えた学生からは、「消防大学校でなければ聴講することができない実災害での緊急消防援助隊の応援、受援活動をはじめ貴重な講義に加え、視察や図上訓練を通じて知識を習得することができた。」など、教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、今後の緊急消防援助隊の活動に有益であったと評価する意見が多く寄せられました。

緊急消防援助隊指揮隊長コース第19回で共に学び修了した学生が、消防大学校で得た知識・技術等の財産を糧に、大規模災害発生時の被災地における緊急消防援助隊の有効な活動と充実強化、そして国民の安全、安心の確立に向けて活躍されることを期待しています。



視察研修(東京消防庁消防救助機動部隊)



図上訓練(災害対応シミュレーション)

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712